

商学部

准教授 中原 孝信

好きな絵本、好きな色、好きなおもちゃ、そして好きな食べ物。小さい頃は、好き嫌いがもっと明確で好き嫌いを中心にして生きていたのではないのでしょうか？今よりももっと好き嫌いにこだわっていたのではないのでしょうか？頭で考えるようになると、好き嫌いよりも物事を良し悪しで判断しがちになります。

例えば、本当は好きだったのに、頭で考えると続けていても将来に繋がらないからやめてしまった事。本当はやりたくないのに相手との関係を考えると断りづらくてやってしまったこと。もしかしたら大学ぐらいは行かないとという理由で、大学進学を決めた方もいるかもしれません。

著者の楠木先生は、良し悪しは外部の評価、好き嫌いは自分の内からの評価と2つを明確に区別し、業界で活躍されている方々のインタビューから成功されている方は、他人の良し悪しではなく、自分の好き嫌いにこだわって生きていると主張されています。結局は、好きなことではないと没頭したり継続したりできないので、中途半端になってしまい大成しないということです。

将来はどんな仕事をしたいのかわからないし、まだ目標もない、そんな方はまずは自分の好き嫌いにこだわってみてはどうでしょうか？自分の好き嫌いを明確にすることは自分を表現することそのものです。あなたの人生をあなた自身の足で歩くために、子供のときと同じようにもう一度好き嫌いにこだわって大学生活を送ってみてはいかがでしょう。

好き嫌いとは才能
楠木 建...

楠木 建(2016)『「好き嫌い」と才能』東洋経済新報社

本 館: K/335.1/Ku93 111051496
Knowledge Base: 335.1/Ku93 111064044

